

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	54			学校名		茨城県立中央高等学校				課程	全日制			学校長名			柴山 修二		
教頭名	江原 忠宏														事務(室)長名		小河原 道子		
教職員数	教諭	33	養護 助教諭	1	常勤 講師	4	非常勤 講師	6	実習教諭、実習講師 実習助手	1	外国語 指導助手	1	事務 職員	3	技術職 員等	3	計	55	
生徒数	小学科				1 年		2 年		3 年		合計				合計				
					男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数						
	普通				71	89	61	97	63	82	195	268	12						
	(普)スポーツ科学コース				26	10	30	5	30	6	86	21	3						

2 目指す学校像

- ・「『知 (virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校
- ・自己を律し、主体的に行動し、何事にも挑戦し、創造する学校
- ・誰にも公平に接し、豊かな心のふれあいができる学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・自己の将来ビジョンを自己の在り方生き方と関連して捉え、主体的に目標に向かって何事にも挑戦する生徒の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・多様な進路に対応した教育課程に基づく、基礎学力の向上とキャリア教育の推進
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・希望進路の実現に向け、学ぶ意欲と挑戦する積極性を備えた生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	- 生徒の多様な進路希望に合わせた授業を展開している。 - 総じて真面目に学習に取り組んでいるが、個々の生徒の学習に対する取り組みの個人差が大きい。 - 家庭学習をほとんどしない生徒が3割以上いる。	- 基礎学力の向上と生徒の一人一人の進路ニーズに合わせた授業内容・指導法の工夫改善 - 生徒の将来に繋がる意識の喚起と資格取得の推進 - 家庭での学習習慣の確立
進路指導	4年制大学合格者数は、国公立大学1名を含む延べ74名で、前年度よりやや減少した。短大合格者数は11名、専修学校合格者数は84名であった。また、就職者は27名（民間24名・公務員3名）で、就職希望者の内定率は100%であった。 - 各学年において、生徒一人一人の進路実現を目指し、土曜課外、模擬試験、各種進路行事を計画的に実施している。	- 生徒一人一人の高い進路目標の設定 - 大学入学共通テストに対応できる学力の定着 - 短期大学、看護専門学校や産業技術短期大学校などへの進学に対応できる学力養成 - 就職希望を実現する基礎学力の定着・生活指導など幅広い生徒のニーズに対応した進路指導 - 学費、奨学金制度、上級学校卒業後のライフプランまで含めた生徒・保護者への情報提供
生徒指導	- 校舎内では、約5%の生徒に襟元の乱れなどがみられるものの、登下校では、髪型、服装など、ほとんどの生徒が遵守している。 - 一部の生徒が、段階的指導を複数回繰り返している。 - 自転車通学者の約5%程度の生徒に、車道の右側通行、傘さし運転など道交法違反をしている場面が見られる。	- 校舎内外の巡回指導や登校指導の充実 - 主体的に校則を順守できる意識の向上と公共の場でのマナーの高揚 - 教職員間の指導基準の再確認と一部の教職員に過度な負担がかからない生徒指導の徹底 - 反社会的な行動をする生徒を生まない雰囲気づくりや、安全・安心な教育環境の整備
特別活動	- covid19感染が収束に向かうにつれ、歩く会とクラスマッチなど屋外での活動は活発に開催できるようになってきた。 - 部活加入率は元年度63%、2年度60%、3年度59%、4年度56%に下がっている。女子生徒の加入率減少が著しいのが主因だが、男子生徒の加入率も低下し始めている。 - 生徒会役員が学校行事の中心として活躍している。	- 学校行事の内容の充実（文化祭、クラスマッチ等） - 部活動の活性化と強化 - 自主的かつ活発な生徒会活動の展開 - キャリアパスポート活用の推進及び生徒のキャリア形成の促進
働き方改革	- 週休日の部活動の指導も含めると、恒常的に勤務時間の超過が月45時間を超える教職員数が1割程度いる。 - 勤怠管理システムの導入により、教職員の勤務時間管理の意識は少しずつ高まっている。	- 業務量の適切な管理に努めるとともに、勤務時間管理の徹底及び超過勤務の時間の削減 - I C Tの活用、業務見直し等による業務削減と軽減 - 教職員一人一人の意識改革とともに、組織的な取組の推進

5 中期的目標

- ・ICTの活用と、多様化した生徒の学習意欲を喚起するための指導方法の充実を図る。
- ・生徒の多様な進路選択を実現するために、個に応じたきめ細かな進路指導を行う。
- ・生徒指導の一層の充実を図り、規律正しい行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校作りを目指す。
- ・活力ある学校づくりのために、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の充実を図るとともに、部活動の充実と強化を図る。
- ・教職員一人一人の意識改革を促し、「茨城県県立学校の教育職員の適切な管理に関する規則」の遵守に努め、長時間勤務を是正する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 個々の進路希望に応じて適切な学習指導を行う。 (2) 指導法研究により、教員の指導力向上に努め、分かる授業を展開する。 (3) 生徒の資格取得を促し、学力向上を図る。 (4) ICTを活用し、より効果的な教育環境を整える。
2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより高大接続改革に対応する学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。
3 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。
4 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 生徒が自主的、積極的に参加できる学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の活性化を目指す。
5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を検討し、運営の改善を図る。 (2) 勤務時間の適正な管理及び時間外勤務削減に向けた業務改善を行う。
6 キャリア・パスポートの活用	(1) キャリア・パスポート活用の推進及び生徒のキャリア形成の促進
7 授業改善の推進	(1) 授業改善推進チームを設置し、年間を通した研修等を行い、授業改善に取り組む。 (2) 「学びを引き出す授業力」「学びを支援し伴走する力」「求める授業を実践する力」の向上を図る。 (3) 学校評価に係る生徒による授業評価で「授業満足度」の割合80%以上を目指す。